

知床の窓から見えるもの

2014年2月19日（水曜日）

～羅臼は未知の世界～

先週、突然話をふられてしまった看護師です。

今回は私からお話を。働いてみてもいいかな・・・と思ってくれる看護師さんがこのページを見てくれて問い合わせをしてくれたらうれしいです。

羅臼は私にとって未知の世界でした。私の出身は東京で若いころは都会生活。その後は長野県で子育て主婦生活。子育てしながら地域の予防接種や高齢者の介護予防教室、介護保険の認定調査、ケアマネ業務などをしていました。その人がなぜ羅臼に来たのかは・・・

謎???ですよ。私にもよくわかりません。きっかけは長女が「羅臼でシャチやクジラをみながら仕事ができるらしいので応募してみようと思うのだけど」と言い出したから。夫と次女はいるのですが夫にとってもいい自立のチャンス、次女はすでに精神的自立はできており、私の自立を支援する姿勢まんまん。そのような状況だったので、私はまず羅臼町役場の保健福祉課に問い合わせの電話をしました。そこで「知床らうす国保診療所が職員を募集していますよ」と教えられ、看護師長との電話相談につながったわけです。

提供：(有)知床ネイチャークルーズ



病院見学・羅臼町案内の為に費用は前向きに検討してくれるのであれば病院で負担します、というありがたい制度を利用させていただき、昨年2月22日に私は羽田から中標津空港に着きました。

結論としては「やってみなきゃ何事もわからない」「迷ったことはやってみよう」「人生は一回きり」「どんな土地にも人は住んでいる」（失礼・・・）と自分で自分を励まし長女と一緒に羅臼に引っ越して来ました。

自然は「知床」です。世界遺産ですものね。野生のエゾシカをみてコーフンして騒ぐと住民の方々に笑われます。シャチは6月がもっとも多く見ることができます。オオワシ・オジロワシは冬が最多で、オジロは留鳥も観察できます。今は冬なので国道を車で走っていると野生のトドを発見することもあります。タンチョウは鶴居村の方に行ってしまったのでしょうか、秋にはよく見たのですが今は見かけません。

知床半島の羅臼の反対側がウトロです。観光客の皆さんはだいたいウトロ側に泊まりあまり羅臼側にまで来ません。でも夏には知床横断道路が開通しているので多くのライダーや自転車の旅行者が羅臼まで足を延ばしてくれます。「昨日は道の駅でトイレに何回も通い、大変でした。ここに病院があつて本当に良かったです。」という脱水症の患者さんの声を聞くのも羅臼ならではの・・・のことですね。

最後になりますが、もしも興味を持った方がいらっしゃいましたら、どうぞ遠慮せずにお問い合わせください。看護師長さんが相談に乗ってくれます。